

日本とベトナムは国交樹立50周年を迎えます

日本とベトナムは、1973年9月21日に外交関係を樹立して以来、50年目の節目を迎えます。

◆16世紀から始まったベトナムと日本の関係

実は日本とベトナムは古くから交流がありました。16世紀から17世紀にかけて御朱印船貿易を通じて、絹や砂糖などの貿易を行っており、多くの日本人が広南国（現在のベトナム中部）に移住したといわれています。当時、ベトナムに居住していた日本人が中心となって建設した橋は日本橋（写真）と呼ばれており、世界遺産ホイアン（広南国の港町として栄えた都市）の観光名所として知られています。

また、当時の長崎の貿易商が広南国の王女を正妻として長崎に迎えた、という史実もあります。この物語を再現した、王女の愛称である「アニオー姫」というオペラが、日越外交関係樹立50周年を記念して製作され、9月にはハノイオペラハウスで世界初演が催されます。



ベトナム中部ホイアンの「日本橋」

◆宮城県でも多く活躍するベトナム人材

以前、ベトナムから日本に働きに来る方が日本語を学ぶ施設を訪問しました。日本で働くことに強い憧れをもって、懸命に日本語の勉強をしている姿がとても印象的でした。

2022年の宮城労働局の統計では、宮城県で働く外国人は約1万4千人と、統計が始まって以来、過去最多となっていますが、そのうち約3割を占める4,200人はベトナムからの労働者であり、国別で1位となっています。宮城県だけでなく全国的に労働力が不足する中で、ベトナム人の働き手が一助になることが期待されています。

◆ベトナムで親しまれている日本文化

日本とベトナムは古くから交流があったこともあり、ベトナムではアニメや日本食など広く日本の文化が親しまれています。日本で働くベトナム人が多いのも日本の文化が親しまれているからかもしれません。例えば職場にも、アニメを通じて日本に興味を持ち、日本語を勉強して、日系企業で働くようになったという同僚もいます。

一方で、私たち日本人はまだまだベトナムについて知らないことが多いのではないのでしょうか。50周年の節目となる今年は、各所でイベントも開催されますので、少しでもベトナム文化に触れてみてはいかがでしょうか。

（ホーチミン駐在 井関 智大）

※本稿は、仙台経済界 2023 9-10月号「77グローバルレター」欄に寄稿したものを一部加工・修正して掲載しています。

【お問合せ先】

七十七銀行 市場国際部 アジアビジネス支援室
TEL.022-211-9880

【Global Letter NEXT ホームページ】

その他の記事はこちらからご覧ください。

https://www.77bank.co.jp/kokusai/globalletter_next/

本紙記載の内容につきましては、当行が信頼できると考える情報に基づき作成しておりますが、その正確性、信頼性、完全性を保証するものではありません。法律上、会計上、税務上の助言を必要とされる場合は、それぞれの専門家にご相談いただくようお願い申し上げます。